チーム医療ＰＢＬ

科目責任者：増　田　道　明（微生物学講座）

Ⅰ．前文

医療現場においては，医師が他の職種の医療従事者と協力しながら診療を行うことが重要です。この科目は，種々の医療職種を目指す学生さん達と模擬症例について話し合いながら問題を解決していくという，PBLテュートリアル形式で行います。医学部以外の医療系の学生さん達が何を学び，どのような専門的視点から医療に携わっていこうとしているかを知ることは，将来チーム医療を実践する上で，大変有意義です。信頼される医師を志す皆さんは奮って受講してください。

Ⅱ．受入可能人数

臨床実習前（１学年～４学年）の学生，10名程度。専門的医学知識の不十分な低学年の学生でも参加可能です。

Ⅲ．担当教員

増　田　道　明（微生物学講座），石　川　知　弘（微生物学講座）

他の医学部教員，姫路獨協大学の先生方，栃木県立衛生福祉大学校の先生方など。

Ⅳ．学習内容

２日間に亘り，模擬症例に基づくグループワークと成果発表から成る演習形式で行います。

１日目：オリエンテーション，グループワーク①，成果発表①，グループワーク②

２日目：成果発表②，教員による解説，講評，レポート作成（Ａ４用紙１枚）

Ⅴ．学修の到達目標

① チーム医療の意義を理解し，説明できる。

② 種々の医療職種の役割分担を理解し，チームの一員として参加できる。

③ 他の医療職種の知識や技術を参考にすることができる。

④ チーム医療における医師の役割を理解し，説明できる。

Ⅵ．成績評価の方法・基準

グループワークにおける成果（内容の妥当性など）や参加状況（積極性，協調性など）および提出されたレポートの内容（学修目標の理解や達成度など）に基づいて成績評価を行います。

Ⅶ．使用する教材・資料など

グループワークに用いる模擬症例の資料を事前に提供します。関連する参考資料については，必要に応じて配布あるいは紹介します。

Ⅷ．質問への対応方法

グループワークにおいては，各グループのテューターの先生が適宜対応します。それ以外は，科目責任者（増田道明：m-masuda@dokkyomed.ac.jp）まで随時質問してください。

Ⅸ．求められる事前学習，事後学習＊（　）内は所要時間の目安

模擬症例の資料を読み，分からない用語などを事前に調べておくこと（約１時間）。事後学習の形式は特に定めませんが，それ以降の学修や臨床実習において，本科目での経験を活かしてくれることを求めます。

Ⅹ．コアカリ記号・番号

A－5　チーム医療の実践

Ⅺ．課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

グループワークの成果に関する発表内容については，担当教員が講評を行います。成績については，教務課を通じて所定の方法で通知します。

Ⅻ．卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

＊◎：最も重点を置くDP　　○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料，情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○